

A 概 要

1. 沿革

1950 (昭 25)

北海道立農業試験場が誕生した。(11月)

- ・全国農業試験研究機関の整備総合計画に基づき、北海道農業試験場を改組し、農水省北海道農業試験場と北海道立農業試験場が設置された。いずれも、北海道の開拓とともに進められてきた農業試験研究の歴史と成果を引き継ぐものである。
- ・道立農業試験場は、札幌市琴似町に「本場」をおき、渡島、上川、十勝、北見、根室、天北の6支場と原原種農場により構成された。

1952 (昭 27)

- ・宗谷支場、岩宇園芸試験地を設置した。また同年、岩見沢試験地(旧岩見沢水稲試験地)を設置し、1955年に空知支場と改称された。

1962 (昭 37)

- ・江部乙りんご試験圃場(旧空知果樹園芸試験地)が道立農業試験場に移管された。

1964 (昭 39)

中央農業試験場が発足した。(11月)

- ・北海道立農業試験場の拡充強化を図るため組織改正が行われた。
- ・「本場」は、中央農業試験場として9部構成に機構整備された。これにより空知支場は同稲作部となり、江部乙りんご試験地、岩宇園芸試験地を統合した。また、原原種農場は中央農業試験場に附置されることとなった。更に試験場の役割についても整理され、中央農業試験場には、道農政との有機的な連携の保持と農業技術開発の全道的な総括並びに各試験場間の連絡調整業務が盛り込まれた。
- ・同時に各支場は会計部局として独立し、本場・支場の関係が改正された。また、1962年新得・滝川両種畜場が両畜産試験場に改組され、この年主管課が農務部畜産課から同農業改良課に替ることにより、原原種農場も数えて道立農業試験場の10場体制が整った。
- ・一方、農水省北海道農業試験場との分担関係も整理され、それまで国立農業試験場長が道立農業試験場長を兼任していたのが解かれた。

1966 (昭 41)

中央農業試験場が長沼町に移転した。

- ・琴似町に所存する試験圃場周辺の都市化が進み、環境が試験研究に適さなくなった。そのため1964年7月移転先を所在地の長沼町東6線北15号に決定、翌1965年移転工事に着手した。1966年に移転業務が完了し、1967年10月移転整備完了祝賀会が催された。

1968 (昭 43)

技術連絡室を設置した。(4月)

- ・道立農業試験場における試験研究の企画及び連絡調整機能を強化するため、中央農業試験場総務部企画課を改組して技術連絡室を設置した。

1969 (昭 44)

専門技術員を試験場に配置した。(4月)

- ・普及事業と試験研究との連携強化のために、専門技術員が中央・上川・十勝・北見各農業試験場に配置された。以後、道南・根釧・天北農業試験場及び稲作部に逐次配置された。

1971 (昭 46)

岩宇園芸試験場が廃止された。

1975 (昭 50)

環境保全部を設置した。(5月)

- ・前年化学部に新設された環境保全部を改組し、環境保全第一科・同二科をもって環境保全部とした。

1986 (昭 61)

- ・江部乙りんご試験地が廃止された。(3月)

植物遺伝資源センターが設置された。(4月)

- ・原原種農場が植物遺伝資源センターに改組・改称され、従来の原原種生産事業とあわせて、植物遺伝資源に関する研究の中核機関として位置づけられた。
- ・土木研究室を設置した。(4月)

1987 (昭 62)

生物工学部を設置した。(4月)

- ・バイオテクノロジーの進歩により、その先端技術を積極的に取り入れるため、1984年技術連絡室に設置されたバイオテクノロジー研究チームを発展的に改組し、育種開発科、微生物開発科をもって生物工学部とした。
- ・同時にそれまでの化学部は農芸化学部に、環境保全部は環境資源部に、園芸部花きそ菜科を野菜花き第一、第二の2科とし、最近の新しい研究ニーズに応える体制にした。また、技術連絡室は企画情報室に改組し、従来の2係を企画課と情報課に再編した。

1991 (平 3)

道立農業試験場基本計画が策定された。(2月)

- ・この計画は、北海道新長期計画がめざす「国際化時代に生きる力強い農業」の中で示されている「地域農業ガイドポスト」を試験研究のサイドから支えるものとして策定された。
- ・北海道病害虫防除所の設置(中央農業試験場内)により、病虫部発生予察科の業務を移管した。

1992 (平 4)

「基本計画」に基づいた組織改編が行われた。(4月)

- ・当面急がれる園芸研究の強化やクリーン農業などを推進するため、組織改編をした。
- ・研究部門では、化学部門は環境化学部と農産化学部に編成替えを行い、園芸部は果樹科、野菜花き科をそれぞれ第一、二科の4科に、経営部は流通経済科を新設して2科に、また、病虫部は土壤微生物科を新たに加えた3科にいずれも拡充強化された。
- ・農業土木研究室は生産基盤科、農村環境科の2科に拡充し、農業土木部とした。
- ・企画情報室には調整課を新設し、試験研究の総合企画調整機能の強化が図られた。

中央農業技術情報センターを新設した。(4月)

- ・1986年以降5年間をかけて整備してきた北海道農業試験研究情報システム(通称HARIS)の本格的な稼働に伴い、各種情報システムの管理運営主体として設置された。この情報センターは、研究情報班(企画情報室情報課職員)及び普及情報班(情報担当専門技術員)からなる機能的組織として構成された。

1993 (平 5)

仮称「花き・野菜技術センター」の基本設計が完成した。(11月)

- ・花き・野菜に関する試験研究の中核的、先導的役割と成果の効果的な伝達並びに活用を目的に設置されることとなった。滝川畜産試験場の敷地内に建設され、その土地基盤及び施設関係の基本的設計が完成した。

1994 (平 6)

畜産部が廃止された。(4月)

- ・畜産部門の再編により、畜産部畜産科を新得畜産試験場に移管し、部長に代わって研究参事を設置した。

1996 (平 8)

花・野菜技術センターが設置された。(4月)

- ・花・野菜技術センターが設置されたことにより園芸部は果樹部となり、野菜花き第一・二科の廃止により2科体制となる。稲作部の専門技術員は、本場へ集中された。

1998 (平 10)

道立農業試験場新研究基本計画が策定された。(3月)

- ・この計画は、農業技術の開発と普及によって農業・農村の活性化に貢献することを基本理念とし、長期的展望に立った試験研究の基本方向を示し、もって21世紀における北海道農業の発展に資することを目的として策定された。

2000 (平 12)

「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)

- ・多様化する研究ニーズに対応するため、研究部・科を再編統合した。
- ・研究10部を作物開発部、生産システム部、クリーン農業部、農業環境部、農産工学部の5部に再編した。
- ・研究部門と普及部門の連携強化を図り、地域課題への対応や新技術の普及定着を促進するため、技術普及部を設置した。
- ・企画調整や技術情報発信機能などの強化を図るため、企画情報室と技術普及部とで構成する企画情報技術センターを設置した。

2004 (平 16)

- ・「米政策改革大綱」を踏まえ、研究開発を一元的かつ総合的に進める体制を整備し、地域水田農業の発展を技術的に支援するため、水田農業科を設置した。
- ・病害虫防除業務の一元的な組織管理により、一層効率的な運営を図るため、病害虫防除所と中央農業試験場を統合した。

- ・試験研究の重点化や効率化の一層の推進を図るため、研究基本計画の見直しを専掌する研究参事が企画情報室に配置された。

2006 (平 18)

「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)

- ・社会情勢の変化に対応するため、道立農試10場体制のうち、天北農試が上川農試天北支場に、植物遺伝資源センターが中央農試遺伝資源部となり、8場+1支場体制にした。
- ・研究部の一部を見直しするとともに、全道対応する環境保全部、基盤研究部、遺伝資源部、地域対応する作物研究部、生産研究部、生産環境部に再編した。

2. 位置

夕張郡長沼町東6線北15号
北緯43°03′ 東経141°46′ 標高23～24m

長沼町市街より北方約8.5km、JR室蘭本線栗山駅
西南約3km 札幌市より約40km

(遺伝資源部)

滝川市南滝の川363番地
北緯43°34′ 東経141°56′ 標高53～54m

JR函館本線滝川駅北東5.5km

(岩見沢試験地)

岩見沢市上幌向町217番地
北緯43°10′ 東経141°42′ 標高12m

JR函館本線上幌向駅南方300m

3. 土壌

本場は、夕張川流域に分布する平坦な沖積土と馬追山麓端の暖傾斜を呈する洪積土及び扇状土からなっている。台地は樽前山系火山灰が推積している。平坦部の沖積土の表層は腐植の含量が少なく、粘土の強い埴土及び埴壤土、一部には砂壤土ないし砂土となるところも存在する。

遺伝資源部は、第4記層に属する洪積土、表土は埴壤土で粘性に富み、酸性が強い。下層土は重粘土で緻密な構造を有し、酸性が強く、未風化で、気水の透通性は極めて不良である。

岩見沢試験地は、幾春別川に由来する沖積の埴土と低位泥炭土からなり、いずれも強グライを呈する土壌で、潜在地力は極めて高い。

4. 面積及び利用区分

(単位：㎡)

区分	総面積	道有地	水田	畑	果樹園
本場	651,704	650,753	0	390,257	123,942
遺伝資源部	248,503	248,503	21,700	130,592	0
岩見沢試験地	309,502	309,502	173,284	98,831	0
合計	1,209,709	1,208,758	194,984	619,680	123,942

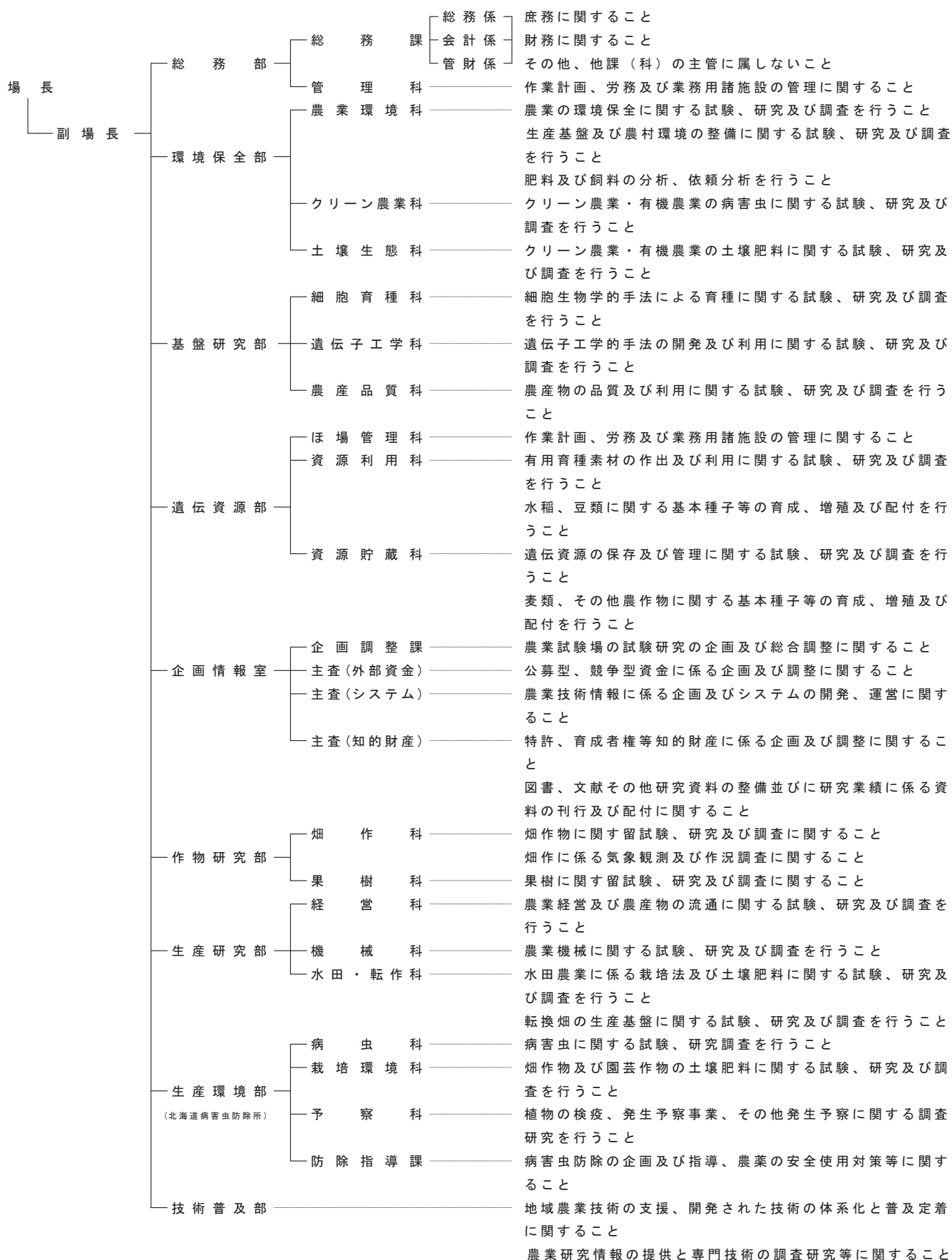
区分	雑種地	原野	建物敷地	防風林	借地
本場	5,804	21,006	109,611	133	951
遺伝資源部	24,040	36,862	35,309	0	0
岩見沢試験地	0	0	37,387	0	0
合計	29,844	57,868	182,307	133	951

5. 職員の配置

平成22年3月31日

区分	事務		技術		非常勤	計
	研究職	行政職	研究職	行政職		
職員数	3	21	86	18	0	128

6. 機構



7. 現 在 員

1) 現在員(平成22年3月31日)

職 名	身 分	氏 名	職 名	身 分	氏 名
場 長	技術	竹 田 芳 彦	基 盤 研 究 部 長	技術	目 黒 孝 司
副 場 長	事務	鞍 懸 周	基 盤 研 究 部 副 部 長	〃	竹 内 徹
総 務 部 長	技術	長 尾 光	主 任 研 究 員	〃	入 谷 正 樹
総 務 課 長	〃	菊 地 和 博	細 胞 育 種 科 長	〃	富 田 謙 一
主 幹	事務	中 西 美 喜	研 究 主 査	〃	平 井 泰
副主幹兼会計係長	〃	佐 藤 信 博	遺 伝 子 工 学 科 長	〃	堀 田 治 邦
総 務 係 長	事務	森 山 桂 一	研 究 主 査	〃	木 口 忠 彦
指 導 主 任	〃	八 畝 博	研 究 職 員	〃	佐 々 木 純
主 任	技術	高 谷 奈 美 恵	〃	〃	鈴 木 孝 子
〃	事務	高 橋 直 哉	農 産 品 質 科 長	〃	小 宮 山 誠 一
〃	技術	三 木 麻 里 子	研 究 職 員	〃	相 馬 ち ひ ろ
〃	事務	坪 田 繁	〃	〃	阿 部 珠 代
主任(再任用)	〃	桂 木 繁	〃	〃	小 谷 野 茂 和
主任(再任用)	技術	上 坂 晶 司	〃	〃	長 田 亨
主 任	事務	本 間 佳 名 子	遺 伝 資 源 部 長	〃	相 川 宗 嚴
〃	〃	千 葉 守	主 任 研 究 員	〃	玉 掛 秀 人
調 査 員	〃	松 尾 工	ほ 場 管 理 科 長	〃	前 川 利 彦
管 財 係 長	〃	按 田 宏 之	主 任	事務	北 和 宏
指 導 主 任	〃	加 可 谷 知 夫	〃	技術	六 田 靖 男
〃	〃	土 井 正 博	農 業 技 能 員(再任用)	〃	佐 藤 正 春
管 理 科 長	技術	村 松 裕 司	〃	〃	氏 家 省 治
指 導 主 任	事務	谷 藤 二 三 雄	資 源 利 用 科 長	〃	南 忠
主 任	〃	森 佐 太 郎	研 究 職 員	〃	木 内 均
〃	〃	山 保 政 貴	〃	〃	山 下 陽 子
農 業 技 能 員(再任用)	技術	柴 田 良 昭	資 源 貯 蔵 科 長	〃	浅 山 聡
環 境 保 全 部 長	〃	志 賀 弘 行	研 究 職 員(再任用)	〃	手 塚 光 明
環 境 保 全 部 副 部 長	〃	加 藤 俊 介	企 画 情 報 室 長	〃	品 田 裕 二
主 任 研 究 員	〃	中 津 智 史	研 究 参 事	〃	長 尾 明 宣
農 業 環 境 科 長	〃	中 本 洋	企 画 情 報 室 長 補 佐	〃	林 幸 治
研 究 主 査	〃	橋 本 均	企 画 調 整 課 長	〃	宝 寄 山 裕 直
研 究 職 員	〃	上 野 達	研 究 主 査	〃	高 橋 睦
〃	〃	濱 村 美 由 紀	研 究 主 査	〃	田 中 一 生
研 究 職 員(再任用)	〃	山 上 良 明	研 究 職 員	〃	平 井 剛
ク リ ー ン 農 業 科 長	〃	岩 崎 暁 生	主 査(外 部 資 金)	〃	大 坂 郁 夫
研 究 職 員	〃	青 木 元 彦	主 査(シ ス テ ム)	〃	泉 統 仁
土 壌 生 態 科 長	〃	中 辻 敏 朗	〃	〃	宗 形 信 也
研 究 職 員	〃	櫻 井 道 彦	主 査(知 的 財 産)	〃	谷 藤 健
〃	〃	杉 川 陽 一	作 物 研 究 部 長	〃	柳 沢 朗

作物研究部副部長	〃	丹野久		指導主任	事務	梶山靖二
主任研究員	技術	前野眞司		主任	〃	石井伸也
畑作科長	〃	藤田正平		農業技能員(再任用)	技術	高橋光男
研究職員	〃	鴻坂扶美子		生産環境部長	技術	中尾弘志
〃	〃	神野裕信		生産環境部副部長	〃	日笠裕治
〃	〃	大西志全		〃	〃	田中文夫
果樹科長	〃	稲川裕		主任研究員	〃	橋本庸三
研究職員	〃	井上哲也		病虫科長	〃	相馬潤
〃	〃	池永充伸		研究職員	〃	新村昭憲
研究職員(再任用)	〃	松井文雄		〃	〃	藤根統
生産研究部長	〃	竹中秀行		栽培環境科長	〃	小野寺政行
生産研究部副部長	〃	田中英彦		研究主査	〃	田丸浩幸
経営科長	〃	金子剛		研究職員	〃	須田達也
研究職員	事務	平石学		予察科長	〃	美濃健一
〃	〃	日向貴久		研究職員	〃	三宅規文
〃	〃	濱村寿史		〃	〃	武澤友二
機械科長	技術	木村義彰		防除指導課長	事務	橋本昭雄
研究主査	〃	稲野一郎		主任	技術	齊藤吉明
研究職員	〃	石井耕太		技術普及部長	〃	内山誠一
〃	〃	木村慎		技術普及部次長	〃	中住晴彦
水田・転作科長	〃	平山裕治		主任普及指導員	〃	木俣栄
研究職員	〃	後藤英次		主査(地域支援)	〃	古原洋
〃	〃	塚本康貴		〃	〃	渡邊祐志
〃	〃	木下雅文		〃	〃	請川博基
〃	〃	佐々木亮		〃	〃	川口招宏
〃	〃	其田達也				
業務主任	〃	上田通広				

2) 転入者及び採用者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
場 長	竹 田 芳 彦	H21. 4. 1	畜産試験場
総 務 部 長	長 尾 光	〃	根釧農業試験場
生産研究部副部長	田 中 英 彦	〃	十勝農業試験場
企画情報室主査	大 坂 郁 夫	〃	根釧農業試験場
研 究 主 査	木 口 忠 彦	〃	花・野菜技術センター
研 究 員	平 井 剛	〃	花・野菜技術センター
研 究 員	木 下 雅 文	〃	上川農業試験場
研 究 員	佐々木 亮	〃	上川農業試験場
研 究 員	池 永 充 伸	〃	北見農業試験場
企画情報室長補佐	林 幸 治	〃	農政部食品政策課
副主幹兼会計係長	佐 藤 信 博	〃	石狩支庁
主任（再任用）	上 坂 晶 司	〃	農政部農地調整課
主 任	石 井 伸 也	〃	道南農業試験場
総 務 係 長	森 山 桂 一	H21. 10. 1	農政部農政課

3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
技術普及部主査	乙 部 裕 一	H21. 4. 1	道南農業試験場
病 虫 科 長	角 野 晶 大	〃	花・野菜技術センター
研 究 職 員	糟 谷 広 高	〃	根釧農業試験場
研 究 職 員	内 田 哲 嗣	〃	十勝農業試験場
研 究 職 員	樋 浦 里 志	〃	北見農業試験場
研 究 職 員	熊 谷 聡	〃	上川農業試験場
研 究 職 員	富 沢 ゆい子	〃	道南農業試験場
企画情報室長補佐	齋 藤 良 治	〃	胆振支庁
会 計 係 長	佐 藤 信 良	〃	後志支庁
主 任	佐々木 勇一	〃	空知支庁
総 務 係 長	木 村 良	H21. 10. 1	農政部農産振興課
主 任 研 究 員	安 積 大 治	H22. 1. 1	総務部行政改革局
総 務 部 長	長 尾 光	H22. 3. 31	退職
総 務 課 長	菊 地 和 博	〃	〃
総 務 部 主 幹	中 西 美 喜	〃	〃
環境保全部副部長	加 藤 俊 介	〃	〃
研 究 主 査	橋 本 均	〃	〃
業 務 主 任	上 田 通 広	〃	〃

8. 歳入決算額

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増 減
建 物 使 用 料	772,000	655,611	▲ 116,389
土 地 使 用 料	61,000	123,108	62,108
証 紙 収 入	2,820,730	2,820,730	0
土 地 貸 付 収 入	0	0	0
農 産 物 売 払 収 入	4,960,000	4,992,188	32,188
不 用 品 売 払 収 入	6,000	156,740	150,740
土 地 売 払 収 入	21,500,000	21,500,000	0
電 話 料 収 入			0
労 働 保 険 料 収 入	338,000	337,419	▲ 581
共 同 研 究 費 負 担 収 入	2,550,000	2,550,000	0
農 業 試 験 研 究 受 託 事 業 収 入	47,948,000	47,948,000	0
雑 収 入	0	2,024,315	2,024,315
計	80,955,730	83,108,111	2,152,381

※ 決算額は3月末時点の見込額を記載。

9. 歳出決算額

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	残 額
報 酬	0	0	0
共 済 費	12,539,658	12,539,658	0
賃 金	87,273,485	87,273,485	0
報 償 費	0	0	0
旅 費	26,819,947	26,819,947	0
需 用 費	155,041,503	155,041,503	0
役 務 費	28,309,460	28,309,460	0
委 託 料	75,988,891	75,988,891	0
使 用 料 及 び 賃 借 料	26,139,954	26,139,954	0
工 事 請 負 費	43,270,500	43,270,500	0
備 品 購 入 費	220,913,677	220,913,677	0
負担金、補助及び交付金	384,510	384,510	0
公 課 費	415,500	415,500	0
補 償、補 填 及 び 賠 償 金	527,321	527,321	0
計	677,624,406	677,624,406	0

※ 決算額は3月末時点の見込額を記載。

独法移行に伴い、出納整理期間支払い額及び残額見込み分は農政部に配当替え。

10. 新たに設置した主要施設及び備品

1) 施設 なし

2) 備品 (1件100万円以上)

(単位:円)

名称	規格	数量	金額	配置
高圧蒸気滅菌器一式	S-090C 内容積0.970? 小型貫流ボイラ 他	1	12,180,000	病虫科・予察科等
小型比重選別機	(株)原島電気工業 MH-510	1	4,452,000	資源貯蔵科 (遺伝資源)
品質分析用製粉装置	QMジュニアII	1	4,725,000	農産品質科
トラクタ排ガス分析装置	ホーダブル燃焼排ガス分析計、FT-IRガス分析計、高精度ガスプローブ	1	17,699,000	機械科
近赤外線成分分析装置	Infratec1241サンプルトランスポートモジュールサンプルキュベットセット	1	6,779,000	水田・転作科
小麦生地物性量迅速測定装置	Micro-dough LAB	1	8,080,000	農産品質科
サーマルサイクラー	アプライドバイオシステムジャパン社 Veriti96-Well	2	1,750,000	遺伝子工学科
ステレオスプレアー	丸山SSA-V1020C	1	5,670,000	管理科
全自動元素分析装置	エレメンタール社 vario MAX-CN	1	12,600,000	農業環境科
自動塩基配列解析装置	アプライドバイオシステム社 ジェネティックアナライザ ³ 500	1	16,800,000	遺伝子工学科
試験用脱穀機(中型)	高さ1300mm・幅750mm、単相100V、ベルトコンベア付き	1	1,204,000	畑作科
アミロースオートアナライザー	固体処理サンブラー(SPS-2000型)、ホンプIV 他	1	16,800,000	水田・転作科
バイオマルチインキュベータ	LH-80CCFL-6CT	2	4,987,500	グリーン農業科
大型トラクタ	83~85PSクラス フロントローダー等	1	5,970,000	ほ場管理科 (遺伝資源)
トラクタ	ヤンマートラクターEG53、YUXQN2(53PS)	1	3,780,000	管理科
原子吸光光度計	日立 Z-2310	1	4,515,000	土壌生態科
ラピッドビスコアライザー	Perten RVA-4	1	6,543,000	農産品質科
大型熱風循環定温乾燥機	高木製作所製 TDH-4特型	1	6,657,000	畑作科・土壌生態科 ・栽培環境科
セミクローラトラクター	クボタ高速パワークロ、グレイタスローター、バケット 他	1	7,880,000	水田・転作科
超低温フリーザー	サンヨー MDF-594AT	1	1,869,000	病虫科
ホイールローダー	バケット容量1.5~1.6?	1	6,667,500	ほ場管理科 (遺伝資源)
ホイールローダー	コマツホイールローダー WA150-5(97PS) 他	1	9,114,000	管理科
オートクレープ	トミー精工 LSX-500	2	1,110,000	細胞育種科・ 遺伝子工学科
超遠心粉砕機	Retsch製 ZM200	1	1,005,000	畑作科
超純水製造装置	ミホア社 Milli-Q Integral 3 バイオタイプ	1	2,468,000	病虫科
電動移動書架	Bタイプ(計27面)	1	5,124,000	企画情報室
プレハブ恒温室	日本医科器械 LP-2、2PP5×3S	1	12,088,000	グリーン農業科
ブラベンダー社ファリノグラフ	E型	1	7,854,000	農産品質科
コンバイン	井関農機HFG452GVRW 結束機仕様	1	6,500,000	水田・転作科
分光光度計	日立 U-3900型 制御用PC、オートシツパ	1	2,142,000	土壌生態科
乗用田植機	クボタ田植機(NSU67-CY241T5F)	1	2,678,000	水田・転作科
水稲種子生産用機械一式	成苗ポット用	1	1,711,000	資源利用科 (遺伝資源)